

## 平成31年度 学校経営方針

### 教育目標

○「自ら学ぶ意欲をもち、人権を尊び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」  
＜展望する力＞      ＜つながる力＞      ＜挑戦する力＞

### めざす生徒像

- 自ら学び考える生徒（主体性・自主性の育成）      ＜展望する力＞
- 命と人権を尊重する生徒（確かな人権意識と豊かな感性の育成）      ＜つながる力＞
- 心身ともに健康な生徒（明朗・快活な人間性と健康でたくましい心身の育成）      ＜挑戦する力＞

平成31年度研究主題

「学びを育む京丹波町メソッド」の理念に基づいた授業改善の実践と、

主体的な学びに向かう生徒の育成

～ キーワードは「主体性（主体的な学び）」と「システムの検証」～

\*（京都府南丹教育局指定）主体的・対話的で深い学びを実現する研究指定校

## 平成31年度学校経営計画兼学校評価書

京丹波町立蒲生野中学校 &lt;NO. 1&gt;

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）	自己評価	関係者評価
<p>・京都府教育委員会、京丹波町教育委員会の示す方針を踏まえ、公教育の推進に努める</p> <p>・平成31年度「京丹波町教育の指針」「京丹波町教育振興基本計画」、改訂「京都府教育振興プラン」「平成31年度学校教育の重点」等に基づく教育活動を推進する</p> <p>・人権尊重をあらゆる教育活動の基盤として、一人ひとりの生徒の可能性を尊重し、その個性と能力を十分伸ばし、変化の激しい社会を自らの力で生き抜いていける学力を身につけさせる</p> <p>・「学びを育む京丹波町メソッド」の徹底を図り、生徒を学習の主体者とし、持続可能な学力向上システムの開発を目指すとともに、学びの基盤となる学習集団の育成に努める</p> <p>・学校教育目標の達成のため、全教職員が共通理解を深め、「チーム学校」として一致協力した実践に努める</p> <p>・実践的な研究・研修を進め、教職員としての指導力の向上と資質能力の向上を図る</p> <p>・小・中の連携を積極的に進め、学びの連続性を高め、一貫した教育内容・教育課程の構築に努める</p> <p>・家庭や地域社会の期待を真摯に受け止め、学校が地域にできること・地域が学校にできることを積極的に取り入れて、学校・家庭・地域社会の協働によるより良い教育環境づくりに努める</p> <p>・「学びの文化」「誇りある学校」の確立を目指すとともに新たな教育課題（新学習指導要領、働き方改革等）を見据えた持続可能な教育活動の構築を図る</p>	<p>【成果】 ○生徒会（特別活動）を軸に、生徒の主體的な活動を引き出し、より良い学校づくりを進めることができ、落ち着いた生活の中で、互いを認め尊重できる関係性を築きつつある</p> <p>○「学びを育む京丹波町メソッド」への共通理解に基づき、同じ方向性を持って授業改善を推進し学力の向上を目指すことができ、府中2学力診断テスト及び全国学力・学習状況調査（中3）結果においても、上昇傾向が見られた</p> <p>○保護者アンケートの11項目すべてで肯定的な回答が増え、本校実践及び生徒の変容に対して肯定的な受け止めが増えた</p> <p>【課題】 ・落ち着いた生活態度、互いに認め合う学習集団等を定着させ、「不登校の解消」「学びの文化」「誇りある学校」の確立を目指し、学力向上の取組と学習基盤の整備を一層充実させる</p> <p>・授業改善をはじめアクティオ手帳やSRBメモの活用等、学力向上に向けた取組をを継続・発展させる</p> <p>・自己管理能力の育成、課題発見能力の育成、家庭生活のふり返り等の取組、自主学習ノートの取組等と生徒会からの働きかけを連動させて、家庭学習習慣の確立及び家庭学習の質の向上に取り組む</p> <p>・全教育活動において生徒のチャレンジを喚起し、頑張る自分・頑張る仲間に対する誇りを持てるよう指導を展開する</p>	<p>とりわけ今年度は、人権教育を基盤とし、自己肯定感の醸成を図ることを、最も大切にしていきたいと考えている。</p> <p>このことは、本校の課題でもある【不登校の解消】のためにも、不可欠な要素であり、生徒に寄り添い、自己有用感に繋げていく必要がある。</p> <p>また【学力向上】【学習基盤の整備】【新たな教育課題への対応】の3つを重点領域と位置付け、学校経営の重点を、重点領域に対応する6項目に絞り込み、実践の焦点化を図る。</p> <p>【学力向上】</p> <p>(1) 学習指導の改善による学力の充実</p> <p>【学習基盤の整備】</p> <p>(2) 人権教育の推進</p> <p>(3) 生徒指導の充実</p> <p>(4) 特別活動の充実</p> <p>(5) 研究・研修の充実</p> <p>【新たな教育課題への対応】</p> <p>(6) 新たな教育課題を見据えたチーム学校づくり</p>	<p>◇年度当初、本校教員による不祥事が起き、本校の教育活動そのものを揺るがすような事態に直面してしまった。そこで、今一度、教職員に対し、信頼される学校を取り戻すために、コンプライアンスの研修や学校が目指すべき姿は何かを教育目標に照らし、再確認した。</p> <p>◇蒲生野中ブロックでは小・中が学びの連続性を図るための研修を行う等、教職員の指導力の向上と資質能力の向上、具体的な方策について共に学ぶ姿勢を持つことができた。今後も、小学校、保護者、地域との連携を強化して、「学びの文化」を定着させることが大切である。</p> <p>◇生徒会を軸とした「誇りある学校」づくりが落ち着いた状況の中で定着してきた。一方、個々の生徒や家庭の課題がより顕在化しており、チームとして課題克服に取り組む必要性が増している。</p> <p>◇新学習指導要領実施に向けて、新たな情報や動向に対して敏感になる必要がある。</p>	<p>◇不祥事を乗り越え、教職員の団結への意識は強固になり、保護者の信頼が増したと思う。この良い流れを生徒の育成に結びつけてほしい。</p> <p>◇生徒の自己肯定感はかけ声だけでは生まれない。自己実現ができ、自分が認められる存在になって、自信が生まれるものである。</p> <p>◇家庭学習の充実に向けて、授業とも関連づけて、学校がしっかりと意識付けを行うようにする。</p> <p>◇年度当初の不祥事を乗り越え、家庭連携、校種間連携等も進み、生徒は落ち着いた学校生活を送ることができるようになり、良い方向に向かっている。</p> <p>◇不祥事のため、年度当初、学校だより等が配付されず、学校の様子が分からなかった</p> <p>◇先々の進路選択（大学進学等）も見据えた進路指導、情報提供等を一層充実させる。</p>

評価項目	重点目標	具体的方策	評価				成果と改善点			
			自己評価		関係者評価		自己評価	学校関係者評価		
			中間	年度末	年度末	年度末				
学習指導	○「学びを育む京丹波町メソッド」に基づいた <b>授業改善</b> の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>付きたい力を明確にし、ねらいから振り返りまで<b>一貫した授業展開</b>（めあて・振り返りの質の向上）</li> <li>単元指導計画に位置付けた<b>効果的な言語活動</b></li> </ul>	C	B	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>京丹波町メソッドに基づく授業改善が常に意識されたものとなっていない現状がある。生徒を学びの主体者にするための授業改善をどのように行うかについて、不断の研修が必要である。</li> <li>一人学習ノートやKSR等、生徒の実態に応じた本校独自のシステムを構築できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な学習に向けての授業改善が功を奏している。</li> <li>学習方法の定着が学力に定着に結びつくと考えられる。</li> <li>授業改善の意欲が感じられる。全体的な斉指導の力量と個に応じた指導への対応が必要であると思う。</li> </ul>		
	○生徒を「 <b>主体的な学び</b> 」「 <b>挑戦的な学び</b> 」に向かわせる環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究課題の設定から<b>小論文</b>作成に至る指導方法や指導体制の確立</li> <li>協働的学習における<b>ICT</b>の効果的な活用</li> <li>授業と連動した<b>家庭学習課題</b></li> <li>学級指導、生徒会活動からも迫る<b>家庭学習改善</b>の取組</li> <li><b>KSR</b>（蒲生野スタディールーム）の活用</li> </ul>	B	B	B	B			B	
	○学力診断テスト結果及びアンケート結果の <b>分析による実践の検証</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>英検・漢検等</b>のチャレンジの推奨</li> <li>ふりスタ、2年学力アップ事業等を活用した<b>定期的な教科補充</b>の実施</li> </ul>	B		B				B	
人権教育	○違いを認め、自他の生命と <b>人権を尊重する態度と実践力</b> の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な<b>人権問題の正しい理解</b>や認識の基礎を培い、その<b>解決への展望</b>を持たせる指導を推進する</li> <li>常に人権を意識した言動に努め、教職員の<b>人権意識</b>を磨くとともに、指導力を高める研修等を実施する</li> </ul>	B		B		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業や集会等の場で安心して自分の考えを発表し、周囲もそれを認め、聞く姿勢が定着してきている。</li> <li>教育活動全般を通して、自己肯定感等の醸成を図る意識が定着しつつある。</li> <li>生徒の個性や学びの多様性に応じて、個別の指導計画や支援体制の一層の充実が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の様子、学校行事の様子を見ていると、学年を越えて仲良く接していて、仲間を大切にできていると感じる。</li> <li>マナーとして、他の発表を聞くというより、他の人の生き様等から学ぶことが大切である。</li> <li>人権についての学習は、すべての教育内容の深化を図るものとして今後とも大切にする必要がある。</li> </ul>	
	○一人一人の <b>価値を認める学習集団</b> づくりの推進（発言を聴く、発想を認める、間違いを許容する、ともに学び気付く、成長を互いに喜ぶ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員が<b>傾聴する姿勢</b>を重視し、一人一人の発言を尊重して、授業は「安心して間違える」場であることを徹底する</li> </ul>	B		B		B			
	○教育活動全般を通しての <b>自尊感情、自己肯定感、自己有用感</b> の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員が的確な評価に努めるとともに、学級活動や生徒会活動等を通して、<b>生徒の相互理解、相互評価</b>を促進する取組を推進する</li> <li>進路実現に必要な学力の定着・向上に努め、深い自己理解と適切な進路情報に基づいて、<b>自ら進路選択</b>を行う指導を展開する</li> </ul>	B	B	B	B	B			
	○自己理解を深めさせ、一人一人の個性や能力に応じた <b>進路の保障</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内委員会において支援が必要な生徒の実態把握を計画的に行い、適切な支援を実現するための<b>個別の指導計画の作成・更新</b>を行う</li> </ul>	B		B		A			
	○個々のニーズに応じた <b>支援体制の構築とインクルーシブ教育</b> の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害のある生徒や人への理解を深める指導・啓発を図るとともに、<b>交流学習の場</b>を保障する</li> </ul>	B		B		B			

評価項目	重点目標	具体的方策	評 価				成果と改善点	
			自己評価		関係者評価		自己評価	学校関係者評価
			中間	年度末	年度末	年度末		
生徒指導	○個性豊かで思いやりのある <b>人間性</b> と確かな判断力を有する社会人になるために必要な <b>規範意識</b> の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導の<b>三機能</b>（自己肯定感・自己決定・共感的理解）を基盤にした生徒指導を展開する</li> <li>朝活指導事項に基づく一致した指導内容、<b>組織的な指導体制</b>を重視する</li> </ul>	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめに関する問題や、問題行動等の未然防止及び早期発見の観点で指導を展開できている。今後はその指導体制を堅持し、情報共有や丁寧な家庭連携により充実を図る。</li> <li>今後、不登校・登校しぶりに対して、SSWの有効活用を図るなど、家庭支援の在り方も含めて組織的な取組を推進し、関係機関との連携強化を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめや問題行動について学校の指導や体制が充実し効果が出ていると感じる。</li> <li>家庭への理解と支援がさらに必要と考える。</li> <li>不登校・登校しぶりに対しては、理解と支援を大切にして取り組む必要がある。</li> </ul>	
	○生徒一人一人の <b>内面理解</b> を重視し、不登校の解消をはじめ、適切な指導と評価による <b>正しい価値観</b> の形成と豊かな <b>人間関係づくり</b> の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校や社会のきまり、マナーを意識させ、<b>規範意識</b>の醸成を図る</li> <li>生徒の気持ちに共感する姿勢と間違いを正す毅然とした態度の両立を図る</li> </ul>	B	B	A			
	○アクティオ手帳を活用した <b>自己管理能力</b> の向上と <b>見通しのある生活</b> の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業、学活、部活動等の<b>あらゆる場面で手帳を活用</b>し、計画的で見通しのある生活態度を育成する</li> <li><b>教育相談機能</b>を高めるとともに、SC、SSWの活用と関係機関との連携を推進する</li> </ul>	B	B	B			
	○家庭・地域社会・校種間や関係機関との <b>連携の強化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>非行防止教室等の活用や系統的な情報モラル教育の推進により<b>問題行動の未然防止</b>を図る</li> </ul>	B	B	B			
特別活動	○学校行事、学級活動、生徒会活動、部活動等における <b>生徒の主体的な活動</b> の推進（企画、運営、参画）	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動を通して、<b>主体的に学校生活や学習を向上・改善させる取組</b>を展開し、適切な評価によって自分たちの活動や母校に対する誇りを育てる（生徒集会開催と月目標の取組、花いっぱい運動、上級生が指導性を発揮する場づくり、自主学習ノート推進運動、互いのことを考えたスマホ・SNSのルール作り等）</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育祭、文化祭等の場面では、生徒の主体的な活動の場、リーダーが指導性を発揮できる場を保障することができている。</li> <li>今後、家庭学習、SNSに関するルールづくり等を充実させて、普段の生活を向上させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別活動の充実が、生徒の自主性を伸ばし学校生活の向上を支えている。</li> <li>社会状況等を鑑みて、スマホ・SNSの指導の充実や生徒主体のルール作りを進める必要がある。</li> </ul>	
	○縦割り活動、部活動等における <b>指導被指導の関係</b> の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>上級生が指導性を発揮する場</b>を保障し、憧れの先輩像や先輩・後輩のあるべき姿を体験的に学ばせる</li> <li>頑張りや活躍を全校に披露する場を保障し、頑張りや活躍を相互に認め合う営みを通して、「頑張ることが格好良いのだ」という<b>前向きな価値観、学校文化</b>を定着させる</li> </ul>	B	B	B			
	○活動の活性化、達成感・充実感、適切な評価を通じた「 <b>誇れる学校・誇れる仲間・誇れる自分</b> 」づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会に目を向けさせ、可能な<b>地域貢献</b>の在り方を考えさせ、少しずつ実践に移させる</li> </ul>	B	B	A			

評価項目	重点目標	具体的方策	評価				成果と改善点	
			自己評価		関係者評価		自己評価	学校関係者評価
			中間	年度末	年度末	年度末		
研究・研修	○学び続ける教職員であるための自己研鑽と、計画的な校内研修による <b>教員の資質・能力の向上と人材育成</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究推進委員会を核にすえて、校内研修会を計画的に実施する</li> <li>研究授業・公開授業を定期的に設定し、事前研究会・研究授業・事後研究会を通して、組織的に授業改善に取り組み<b>授業力の向上</b>を図る</li> </ul>	C	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>上半期は、学び続ける教職員であるための自己研鑽や校内研修が、十分に行えなかった。今後は教員の資質・能力の向上を目指し、授業研究等、教科の枠を越えた協議が活性化し、自らの授業に還元する意識を高めさせたい。</li> <li>ブロック研修会において、連続性を話題にした協議が実施できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的な研究・研修には質や量ともに限界があるが、自己研鑽に刺激を与えるものでありたい。</li> <li>研究指定を活用して、組織的な研究・研究が進めることができた。</li> <li>今後も授業改善に向けた研究・研修を充実させてほしい。</li> </ul>
	○事前研究会・研究授業・事後研究会の流れを大切に <b>した授業研究の充実</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼小中合同のブロック研修会において、<b>学びの連続性、指導の連続性</b>を目指した協議を活性化し、学力向上に資する取組を推進する</li> </ul>	B	B	B			
	○幼小中連携の充実による系統的な指導と <b>学びの連続性</b> の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロック研修会において、発達段階に応じた<b>言語活動の在り方</b>（話すこと、書くこと等）、<b>主体的な家庭学習の在り方</b>についての研究を進める</li> </ul>	B	B	A			
新たな教育課題を見据えたチーム学校づくり	○学校の教育力の向上に向け、学校評価を活用し、PDCAサイクルを重視した改善・充実を図り、開かれた <b>特色ある学校づくり</b> を推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領に基づく指導と評価についての研修を実施する</li> <li>平成31年度<b>特別の教科・道徳</b>の先行実施に向けた研修と準備を進める</li> <li>京丹波町の食・職・殖をテーマにした<b>総合的な学習の内容を再構成</b>する</li> </ul>	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>町長部局と連携し、地域学習としての3年総合的な学習の時間の授業「京丹波町の今と未来」の外部講師として、町の職員を招き実施することができた。</li> <li>部活動方針の明示や出退勤システムを活かした教職員の働き方改革の着実な実施について、今後も教職員の意識改革も含め、推進させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新指導要領の内容及び評価の研修を充実させる必要がある。</li> <li>8時30分の退勤の推進をできるだけ着実に進められるようにしてほしい。</li> </ul>
	○ <b>新学習指導要領（及び移行措置）</b> の確実な理解と着実な準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>南船（口丹）陸上に向けた<b>陸上練習の取組を構築</b>する</li> <li><b>会議の持ち方の工夫</b>を図る（要望制の時間割内会議の設定）</li> </ul>	B	B	B			
	○ <b>総合的な学習の時間</b> の内容、探究課題の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>8:30退勤（水曜7:00）を推進するとともに、<b>出退勤ソフト結果の活用</b>を図る（自己の振り返りと管理職からの指導）</li> </ul>	B	B	B			
	○ <b>教職員の働き方改革</b> に向けての <b>業務等</b> の見直しと教職員の <b>意識改革</b>		B	B	B			